

気候危機の今、私たちにできることは 牧野 直子

この27年を振り返る

地球温暖化防止京都会議 COP3 が開催されたのは1997年12月。そして京都議定書が交わされました。

私はその前年、箕面市議になり、11月にはドイツの環境首都と言われるフライブルグに議員仲間や市民グループで視察に行きました。環境問題を共に考え、行動する箕面市民グループ「15%クラブ」を立ち上げたのもこの頃です。1週間にせめて1日(15%)は省エネを実践しようという活動を始めました。そして地球温暖化についての学習会を重ねました。

その学習会の中で「地球温暖化がすすむと、台風が次々とやってきて、災害が多発する。でもその時になってあわててももう遅い。そうならぬように今から省エネを実践していかなければ間に合わない」講師の方のこの言葉が今も耳の奥に残っています。

世界中で災害多発

「地球温暖化ではなく、地球沸騰化の時代」これはグテーレス国連事務総長の言葉です。また彼はSDGsの目標の15%しか達成できていないとも言っています。

2015年のCOP21ではパリ協定が採択され、あらたな枠組みがつけられましたが、先進国と開発途上国など、それぞれ一致した取り組みとなりにくい状況です。

今年の夏は記録的な猛暑となりました。また世界中で災害が多発しています。9月に入ってから、モロッコで大地震が起き、1週間後にはリビアで豪雨があり、多くの方が亡くなっています。また山林火災も世界中で多発しています。アフガニスタンでは今も干ばつが続いています。

このような気候危機に対し、気候非常事態宣言を出す自治体が増えてきているそうです。日本ではまだ140団体ほどで、箕面市もまだ宣言していません。まずは自分の住む地域から、そして一人一人ができることを積み重ねていくという地道な努力が必要です。

少子高齢化と災害

災害が多発する一方、「少子高齢化」も問題です。「いざ避難」といっても足腰が弱った高齢者が多く、サポートできる若い人たちが少ないということもこれから直面する問題です。自力で行動できる体力をつけておくこと、そして地域の人のつながりを普段から育てておくことが大切です。そのためには地道な努力が必要です。

「結みのお」を通して日頃から地域の信頼関係を地下に根を張るように育てていきたいと思っています。「あるものは活かそう！ないものは創ろう！」はそのためのスローガンです。結みのおのバザーもそのための取り組みの一つです。

あらたな取り組み

先日、「To Which We Belong 君の根は。」という映画を観て、リジェネラティブ(環境再生)農業という取り組みを知りました。そしてそれを実践している方のお話を聴きました。若い農家さんが地域であらたな取り組みを始めておられます。環境を保全しながら、農産物を育てるという動きは世界中でじわじわと広まりつつあるそうです。

だれもが今の生産効率最優先の経済は行き詰まっていることに気づき、そしてあらたな動きが始まっているのです。「気がついたときはもう遅い」と言って諦めているわけにはいきません。これからの世代の人が将来に希望を見いだせるように自分に何ができるのかを、一緒に考えて行動していきましょう。

